

Ginkyo

www.kumamoto-hsu.ac.jp

銀杏学園通信 ぎんぎょう

45

2022 冬

Take Free



CONTENTS

- 2 特集1・理学療法学専攻 収容定員増
- 4 特集2・スポーツヘルスサイエンス事業
- 6 特集3・国際シンポジウム
- 7 News & Topics
- 8 実習体験レポート
- 9 研究ノート
- 10 OB就職活動ルポ
- 11 研究室紹介
- コラム
- Library
- 12 基本理念・教育目標
- 熊保大夢基金

特集

- 理学療法学専攻 収容定員増
- スポーツヘルスサイエンス事業
- 国際シンポジウム

SPECIAL FEATURE

理学療法学専攻 収容定員増

入学定員

40名 → 60名 (20名増員)

理学療法学専攻の収容定員増について、
令和3年10月22日に文部科学大臣より認可されました。

健康・スポーツをキーワードに地域貢献できる人材やデータ分析等の研究力を有した人材育成を目指し、理学療法学専攻にスポーツリハビリテーションコース(20名)を新設します。ダブル・ラーニング制度により、理学療法士の国家資格に加え、アスレチックトレーナー(JATAC)*の資格取得を目指します。

※現在、認定校の申請中

★入学定員を20名増

★スポーツリハビリテーションコースを新設

アスレチックトレーナーとは？

アスレチックトレーナーは、スポーツ競技での受傷に対する応急処置、傷害の程度の把握、競技復帰までのプログラムの立案や、そもそも傷害をしないように予防するなど、アスリート等の支援を業としています。近年、子供から高齢者まで年代を問わず、自身の体力向上や健康維持・増進のために運動をする方々も増えてきていますが、運動の専門家としてのトレーナーの活躍の場は、今後、さらに拡大していくものと思われます。

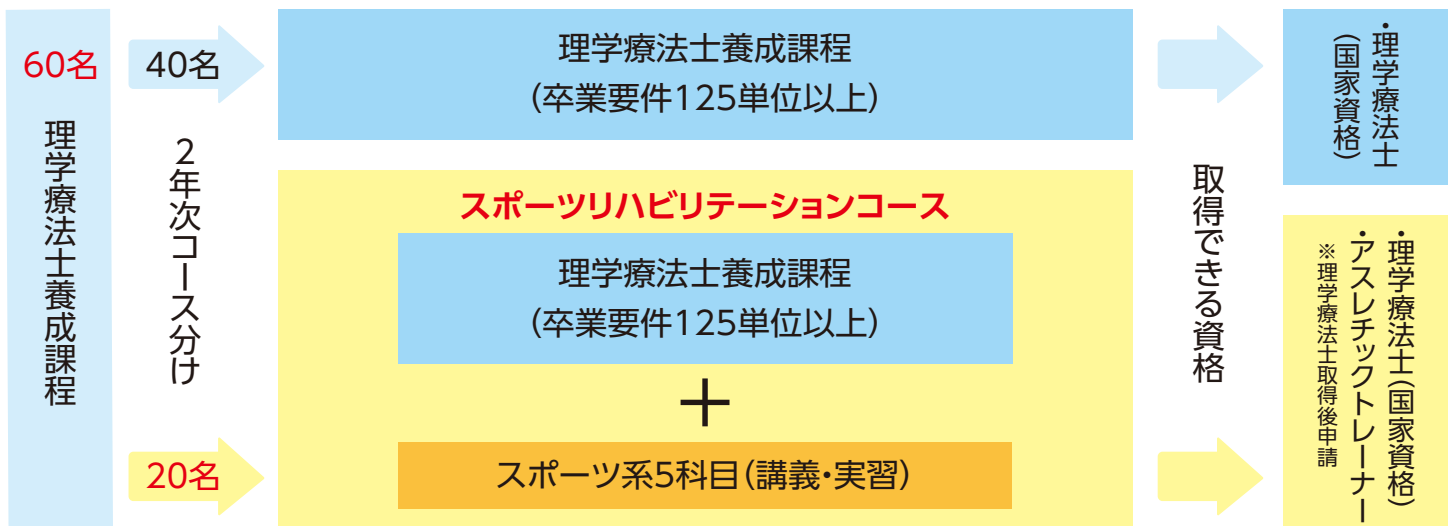


どのように学ぶ？

理学療法学専攻全体の定員は60名で、全員、理学療法士を目指すための科目を履修します。学生の皆さんには、1年次にスポーツリハビリテーションコース選択希望を募ります。コース定員は20名ですが、希望者数がそれを上回る場合には、選抜を行います。

2年次よりコースに関係する科目の履修も始まります。これらの科目は他の40名と一緒に学ぶ科目に上乗せして履修することとなりますが、それらは、ジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会(JATAC)の認定するスポーツ医学系や科学系などの読み替え科目も含まれる予定(現在、認定校の申請中)であり、2年次前期セメスターと後期セメスターでは座学科目を、2年次後期セメスターおよび3年次前期セメスターでは、演習系の科目の配当を計画しています。演習系の科目は、アカデミックパートナーシップを結んでいる実業団チームなどを対象とした実践的な演習を行います。また、それに加えて、在学期間中にJATAC全国大会へも参加します。

なお、本学を卒業し、理学療法士免許を取得後、申請することで、認定アスレチック・トレーナー(JATAC-ATC)の称号が付与されます。



スポーツリハビリテーションコースで学び、 スポーツ現場などで活躍する理学療法士を目指す。

2011年に制定されたスポーツ基本法では、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国を実現する重要な指針が示されました。ついで、2017年3月に「第2期スポーツ基本計画」中で、① 子供の体力向上、② 学校体育・運動部活動の系統化・明確化、③ 生涯スポーツ社会の実現、④ 障がい者スポーツの充実、⑤ 国際競技力の向上、⑥ スポーツによる地域・経済の活性化、⑦ スポーツを通じた女性の活躍促進を掲げ、子供の体力向上からトップアスリートの競技力向上まで、健康維持や体力増進のために運動を意図的にかつ適切に日常生活へ組み込むことが重要になっており、新設のスポーツリハビリテーションコースでは、将来、健康・スポーツ現場などで活躍できる理学療法士を目指した教育を行います。このことは、障がい者のリハビリテーションの域を出て、わが国の最重要課題である国民全体の健康寿命の延伸にも寄与することとなります。

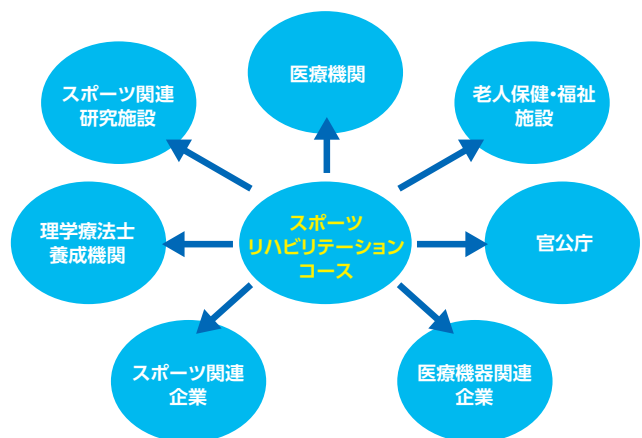
カリキュラムは？

スポーツリハビリテーションコースの学生は、理学療法士を目指すための科目以外に、スポーツトレーニング論、スポーツデータサイエンス論、健康スポーツ心理学、アスリートサポート演習、スポーツコンディショニング演習等の実践的な科目を履修します。アスリートを対象とした演習はこのコースの魅力でもあります。



卒業後は？

理学療法士とアスレチック・トレーナーのダブルライセンスを有することで、整形外科病院やクリニック等の医療機関での理学療法業務を中心とした就職はもちろんのこと、スポーツ現場でのアスリートを対象としたトレーナー業務や、一般の方も含めた健康維持・増進を支援する企業などへの就職も選択肢になるものと考えます。



熊本保健科学大学 スポーツヘルスサイエンス 事業

本学の保健科学に関する専門的な知識と技術を活用し、
スポーツを軸とした健康増進支援が目標です。

熊本保健科学大学スポーツヘルスサイエンス事業とは、理学療法士 (PT) 松原 誠仁准教授、理学療法士 (PT) 楠木 誠講師、作業療法士 (OT) 益満 美寿准教授の3名が中心となり立ち上げ、令和3年5月の理事会・評議員会で承認された事業です。

本学の保健科学に関する専門的な知識と技術を活用し、『スポーツアスリート支援』×『学生教育』×『地域貢献』という相互メリットを生み出していきます。また将来的には、ジュニア世代からシニア世代までを対象にスポーツを軸とした健康増進支援も視野に入れています。

【事業内容・ビジョン】

アスリート支援

ハイ・パフォーマンス支援
(心・技・体の分析)

コンディショニング支援
スポーツ障害予防

ジュニア支援

パフォーマンス支援
(心・技・体の分析)

スポーツ障害予防
予防リハビリテーション

シニア支援

スポーツツーリズム
(旅行×スポーツ)

生涯スポーツ支援
(健康増進・QOL支援)

【事業の特徴】

スポーツを軸とした
『アスリート支援』

×

『学生教育』

×

『地域貢献』

競技スポーツアスリートの競技力 (ハイパフォーマンス) 向上とスポーツ障害予防のためのスポーツ科学的なデータの検査測定とフィードバックを行います。

リハビリテーション学科の学生をはじめ、今回、理学療法学専攻に新設される「スポーツリハビリテーションコース」の学生のための実践教育 (実習) の場として、トップレベルのアスリートや地域スポーツに実際に携わりながら、スポーツ科学的な検査測定を経験できるフィールドを提供し、学生の主体的な学びを加速させます。

アスリートだけでなく、ジュニア (小・中学校・高校) 世代、シニア世代における地域スポーツ関連事業との連携・協力を推進し、地域スポーツや健康増進の一助になるように支援を強化していきます。



【今年度の事業実績】

◆水上村スカイヴィレッジ高校生アスリート支援 ～サテライト型支援～

本事業の一環として、ニーズがある場所に出向いて支援する『サテライト型支援』を実施。7月下旬と8月上旬の2回、水上村教育委員会と連携して、高校生アスリート支援を実施しました。水上村スカイヴィレッジは、標高約1,000mの準高地トレーニングができるクロスカントリー施設です。今回、我々がサポートした対象は、県内外(熊本、鹿児島、宮崎、愛媛、福岡、広島、山口)の高校駅伝チーム(いずれも有名な強豪校)で、この地で夏合宿を実施しているところで支援活動をさせていただきました。

アスリート支援の内容は、血中乳酸値測定、動作(フォーム)解析、骨密度測定、体組成測定(筋肉、脂肪、水分量など)、心理検査、疲労度測定(唾液アミラーゼ値測定)などです。これらのアスリート支援の検査には、学生たちが主体となって積極的に携わっており、アスリート支援現場の実体験ができていました。この日の検査結果の分析も学生と教員で協力して行い、後日、監督・コーチ、選手へフィードバックレクチャーまで実施しました。



◆実業団スポーツ・トップアスリート支援

本学では、5年前から継続して実業団スポーツ・トップアスリート支援を実施しています。特に、肥後銀行女子駅伝部のアスリート支援として、年間を通じて定期的なフィジカルチェック、トレーニングの負荷・強度チェック(血中乳酸値測定など)、メンタルチェック・心理カウンセリング、それに、大会のレース中における動作・フォーム解析などを継続して実施しています。また、キャノンアスリートクラブ九州(大分)のアスリートに対しても要望に応じたメンタルコンディションサポート(カウンセリング)をスポット的に実施しています。



◆熊本県スポーツ協会との連携

～「くまもとワールドアスリート事業」への取り組み～

今年度より熊本県スポーツ協会と本学は、「くまもとワールドアスリート事業」に関する連携協定を結びました。連携協定の内容は、アスリート育成・強化プログラムへの協力。具体的には熊本県出身で、オリンピックをはじめとする国際スポーツ大会で活躍する資質をもった次世代アスリートである「育成指定選手」の競技力向上・強化を支援するために、『フィットネスチェック』(スポーツ科学検査測定)を実施することです。

本学で実施する検査測定は、国立スポーツ科学センター(JISS)のハイパフォーマンスセンターで実施しているフィットネスチェックに準じた検査項目(20項目)の中から、アスリートに希望・選択していただいた検査項目を実施しています。今年度は、10月～2月の期間に6名の育成指定選手が検査測定を実施する予定。この検

査測定には、学生もサポートとして参加し、トップアスリートを検査する実践経験(実習)の場として学んでいます。



【今後の展望】

このスポーツヘルスサイエンス事業は、本学の保健科学に関する知識・技術、そして、設備(環境)と人材(専門家・学生)のすべてを有効活用しながら展開していきます。この事業は、アスリート支援や地域貢献だけに留まらず、新設される「スポーツリハビリテーションコース」で学ぶ学生にとって、有意義な学びの機会となります。すなわち、在学中からトップアスリートや地域スポーツに携わりながら学び・経験できるフィールドとして提供されています。将来、学生たちには、この実践経験を活かし幅広い分野で多職種と連携できる専門職として羽ばたいて欲しいと思っています。

国際シンポジウム

グローバルな時代に生きる 私たちの国際シンポジウム



令和3年10月8日(金)に "The 6th Allied Health Sciences International Symposium 2021" をオンラインで開催しました。

本シンポジウムは、2011年に大邱保健大学の主催で、本学を含む4大学で開始された医学検査領域のミニ国際シンポジウムを発展的に解消し、2016年7月に看護およびリハビリテーション領域を加えた新たな保健科学シンポジウムとして同大学の主催で第1回が開催されました。翌年7月には本学が第2回の主催校となり、その後、2018年7月にフィリピンのセントロエスカーラ大学主催で第3回、翌2019年11月にはタイのコンケン大学の主催で第4回が開催されました。第5回は2021年2月に大邱保健大学の主催でオンライン開催でした。この間、参加校に変遷があり、本学と大邱保健大学、コンケン大学、セントロエスカーラ大学の4校に加え、第4回からフィリピンのファー・イースタン大学が正式参加しました。現在の参加校は5校となっています。

一年半前に学長より国際担当学長特別補佐に任命していただき、準備委員会を立ち上げ、国際交流委員会と連携しながら準備を進めてきました。COVID-19の状況を注視しながら準備を進めてきましたが、6月下旬頃から第5波に突入し急速に感染が拡大したため現地開催は困難と判断し、第5回の大邱と同様にオンライン開催を決定しました。

本シンポジウムでは、COVID-19への対応を取り上げることとし、"Education and Research at Healthcare Universities in the New Era -Looking to the Post-COVID-19 World-"というメインテーマを掲げました。Keynote Speechには熊本大学・鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター・センター長の松下修三教授をお迎えし、"Development of Vaccine and Neutralizing Antibodies to End COVID-19 Pandemic"というタイトルでご講演いただきました。COVID-19の発生から現在までの世界の状況をお話しいただき、後半はご自身で開発中の新型コロナウイルスに対する中和抗体について語っていただきました。参加者の関心も高く、多くの質問があり有意義な質疑応答となりました。

Plenary Sessionでは"Higher Education Initiatives in the COVID-19 Era"というテーマについて、川口教授の司会のもとで各大学の演者にそれぞれの大学における工夫を話していただきました。

Keynote Speechは医学検査学科4年生に聴講の機会を設けましたが、web上でも120名程度の参加がありました。Plenary Sessionには最大210名におよぶweb参加があり、その後のConcurrent Sessionは3領域に分かれての開催でしたが、いずれも最大100名を超える参加があり、活発な討論が繰り広げられました。

COVID-19の影響でオンライン開催となりましたが、学問的討論とともに5大学間における国際交流も出来たのではないかと思います。次回のフィリピンのセントロエスカーラ大学とファー・イースタン大学の共催による第7回シンポジウムでは是非、現地開催が実現することを期待いたします。

(国際シンポジウム準備委員会・委員長 山元総勝)



講演中の松下修三教授

オープンキャンパス・ キャンパス見学会を開催

7月～9月に、人数制限・プログラム変更など感染症対策を行いながらオープンキャンパスを開催しました。また10月以降にも少人数を対象としたキャンパス見学会を開催しています。充実した施設を見て頂くことに加え、大学の雰囲気を感じていただく機会となりました。



学生代表者との意見交換会

学生代表者と大学との意見交換会が10月12日(火)に実施されました。SG担任との面談、課外活動への支援、国家試験に向けたグループ学習等について要望があり、竹屋学長から「COVID-19の状況をみながら前向きに検討する」との回答がありました。



令和3年度 第1回FDセミナー

8月31日(火)にFDセミナーを開催しました。テーマは「遠隔授業における著作物利用」で、講師には東京都立大学大学院法学政治学研究所の山神清和教授をお迎えしました。本学から107名、崇城大学から7名の参加がありました。



動物慰霊祭

10月20日(水)に動物慰霊祭を執り行いました。実験動物の御霊に、竹屋学長および学生代表が慰霊の詞を述べた後に、木下理事長をはじめとした参列者で献花を行いました。動物たちの冥福を心よりお祈りいたしました。



日本ピア・サポート学会 「学生のための、はじめてのピア・サポート」

9月19日(日)、日本ピア・サポート学会第19回研究大会現地特別企画「学生のための、はじめてのピア・サポート」にオンラインで参加しました。全国の学生のさまざまな発想や活動の多様さに驚き、とても良い経験となりました。



医学検査学科臨地実習認定式

10月28日(木)に医学検査学科3年生が参加して臨地実習認定式が行われました。式の中で臨地実習認定証が学長から学生代表の赤星美帆さんに「おめでとう」の言葉とともに授与され、厳かな雰囲気の中滞りなく終了しました。



学生相談・修学サポートセンターの リニューアル

学生支援体制の再構築に伴い、2018年4月に新設された学生相談・修学サポートセンターにおいて、遅れていましたハード面整備としての面談室拡充工事が9月24日(金)に終了しました。今後も利用しやすいセンターを目指して、ソフト面及びハード面の充実を図って参ります。



井芹川流域周辺大清掃

井芹川流域一斉大清掃が西里校区まちづくり委員会主催で、11月14日(日)早朝に開催されました。今年も学生・教職員等125名のご協力をいただき、地域の方々とサイクリングロード周辺を清掃し、周囲はとてもきれいになりました。



合同就職説明会

9月24日(金)リハビリテーション学科3・4年生を対象に合同就職説明会を開催しました。今回は感染防止対策のためオンライン形式で実施しました。各施設の様々な情報を得たことで、より就職への意欲が高まったと思います。ご参加された施設の皆様、ありがとうございます。



オンラインで使用したツール「Remo Conference」で合同就職説明会のレイアウトをイメージ





実習体験レポート

1年次から4年次まで、実践レベルの技術や知識を習得するために、段階をふんだ実習があります。学科専攻によって内容は異なり、実際に現場での実習を体験することで、自分の将来を具体的にイメージすることができます。今回は6人の学生の実習体験をご紹介します。実習を通して学んだことや感じたこと、実習中の気分転換の方法から皆さんへのアドバイスまで幅広くお答えしていただきました。

①実習を通して学んだこと ②実習中の気分転換 ③後輩へのアドバイス

小さな工夫の重要性を実感

医学検査学科 3年
加藤 あいみ さん

- ① 臨地実習では、これまで学内で学んだ知識が現場でどのように活かされているのか、また学内では学べない患者対応などについて学ぶことができました。特に生理検査では、現場の技師の方の監督のもとで実際に患者様に対して心電図検査の一部を実施させて頂きました。声掛けや電極の取り付け方など小さな工夫が検査を円滑に進めるために重要だと学びました。また、検体検査では正確な検査結果を得ることに加えて迅速さも要求されます。そのため、患者様の病態や検体の状態を考慮し、業務をこなすことが重要であると教えて頂きました。
- ② 休日は、映画鑑賞などをして過ごしました。また、友人と連絡を取り合い、お互いの状況を話し、実習に関する相談にも乗ってもらいました。
- ③ 検査技師の方々は、優しく丁寧に指導して頂けます。疑問に思ったことを積極的に質問することで、人一倍学べるが増えると思います。また、他職種と関わる機会を通して、臨床検査技師がチーム医療の中でどのような役割を担っているのか実感することができます。より実践的な経験から普段の講義で学んだ知識や基本的な技術を深め、充実した実習生活を送って下さい。

どの分野の知識も不可欠

看護学科 4年
井上 結里加 さん



- ① 新型コロナウイルスの影響で限られた時間や環境での実習となりましたが、そのような状況だったからこそ日々の経験を大切にすることができたと思います。実習では看護技術や疾患などの知識はもちろん、患者さんへの向き合い方や看護師としてのあり方についても学ぶことができました。最終的にはすべての領域で学んだことがそれぞれ結びつき、どの分野の知識も必要不可欠であるということに改めて気づかされました。実習での学びをこれから先の経験に活かしていきたいと思います。
- ② 土日など時間のある時は睡眠を確保するようにしていました。また、インターバル期間中などは息抜きに友人と出かけることもありました。
- ③ まずは健康に実習に行くことが重要なので自分の身体を大切にしてください。もちろん一生懸命課題やレポートに取り組むことが重要ですが、万が一間に合わなくてもとりあえず毎日実習に行くことができれば何とかなると思います。実習で学んだことはきっと就職してから役に立つと思うので頑張ってください。応援しています。

理学療法士として働くことを具体的にイメージできました

リハビリテーション学科
理学療法学専攻 4年
森川 文華 さん



- ① 臨床実習では、現場の方の監督のもとで実際に1人で患者様を受け持たせていただき治療プログラム立案から介入までを任せていただきました。学生ですので患者様と関わる時間が限られている中、会話や歩行など普段の様子をできるだけ細かく分析し、どうアプローチをしていくべきかを見極めなければならないところが難しく感じました。しかし自分で考えたプログラムを実際に患者様に提供することでより臨床に近い形で実習を進めることができ、理学療法士として臨床で働くことを具体的にイメージすることができました。
- ② 実習中は毎週末に、スイーツやお菓子を欠かさず買っていました。自分へのご褒美でモチベーションを上げていました。
- ③ 慣れない実習と緊張で上手くいかないことが多いと思いますが、充実した実習にすることが大切だと思います。実習の成績を気にして自分を良く見せようとしがちになってしまいがちですが、自分の思いや考えを臨床で評価してもらうことで成長できるので、是非頑張ってください!



患者さんに合ったやり方で 関わっていくことが大切です

リハビリテーション学科
生活機能療法学専攻 4年
柿木 未波さん

- ① 私が実習を通して学んだことは、患者さん1人1人と向き合うことの大切さです。例え同じ疾患だとしても、症状が違ったり、リハビリに対する意欲が違ったり、リハビリのゴールが違ったりします。私は、この疾患にはこういうリハビリが良いという考え方をしていましたが、実習を通して疾患だけをみて考えるのではなく、患者さん1人1人と向き合い、その人に合ったやり方で関わっていくことが大切だということ学ぶことが出来ました。
- ② コロナ禍で外に行くことが出来なかったため、友達や家族と電話で話をすることで気分転換をしていました。
- ③ 実習はとても緊張すると思いますが、臨床の場でしか学べないことがたくさんあります。実習で大切なことは、分からないことは分からないと言い、積極的に質問することだと思います。振り返るとあつという間に終わっていると思うので、リフレッシュも大事にしながら、自分らしく笑顔で頑張ってください。応援しています。

チーム医療を学ぶ

リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻 4年
矢浦 麻有さん

- ① 私は総合病院での実習を経験させていただき、チーム医療について学ぶことが出来ました。実習期間中、あるがん患者様の介入を見学させていただき、がんによる余命がある中で、患者様が今望んでいることは何か、その希望に対して何をすべきなのかなど、多職種にわたって話し合い、患者様を第一に考えたアプローチを行っていました。その際、専門分野だけではなく、多職種からの情報を受け取るための知識も必要であると感じました。このことから、言語聴覚士として患者様にアプローチをするだけでなく、チームの一員としてアプローチができるようになりたいと強く思いました。
- ② 実習期間中、休みの前日に課題を全て終わらせ、休日には趣味に没頭し自分の時間を過ごしたり、友人とテレビ電話で話すことで、互いに応援しあったりして、実習を頑張りました。
- ③ 実習地にもよりますが、実習指導者の先生方のご都合もあり、待ち時間がありました。その際、ポケットサイズで要点をまとめたメモ帳を作成し、それをみて待ち時間を過ごしました。それがかなり役にたったので、自分なりに要点をまとめたものをポケットに入れておくとよいと思います。また、自分から積極的に患者様に話しかけたり、実習指導者の先生方に質問したりして、自分になりたい将来の言語聴覚士像をイメージし、有意義な実習になるよう頑張ってもらいたいです。



産後の生活を視野に入れた 母子へのサポートが必要

助産別科
山本 樺恋さん



- ① 実習を通して助産師は母子の命を守る責任のある職業であると学びました。助産師は自ら判断しケアを行うことが出来るため、助産師の判断が母子の生命や分娩進行に影響を与えるということを実感し、安全に分娩を行うためには助産師の持つ知識で根拠のある迅速な判断を行う必要があるということ学びました。また妊娠期、分娩期だけでなく、産後の生活を視野に入れた母子へのサポートを行うことが今後助産師に求められることであったと感じました。
- ② コロナ禍であり食事会など行えなかったため、休憩時間に実習メンバーと実習でのストレスや悩みを共有することで息抜きをしていました。
- ③ 助産別科の実習は看護学科での実習より積極性や自主性が求められると実感しています。どのようなケアを行う必要があるか、内診や分娩セットを準備するタイミングはいつかなど、分娩進行から判断し指導者に伝える必要があります。緊張感のある実習ですが、赤ちゃんやお母さんとの関わりはとても楽しいので、安心して実習に臨まれてください。

研究ノート



保健科学研究科
保健科学専攻
リハビリテーション領域2年
平江 満充帆さん

超音波検査を用いた嚥下関連筋の筋肉の量と質の信頼性の高い評価方法の検討

超音波とは“人間の耳では聞くことができない高い音”のことを指します。この超音波を体内に向けて発信すると、臓器や組織によって超音波が跳ね返ってきます。この跳ね返ってきた超音波を受信し、画像化することで、体の内部を観察できる検査が超音波検査(エコー)です。エコーでは、臓器だけでなく、食べることに関わる“嚥下関連筋”の筋肉量や筋の質も評価できます。しかし、確立された嚥下関連筋の評価方法はなく、エコーは繊細な操作が必要のため操作技術が検査に影響することが課題とされています。臨床の場で、エコーを用いた嚥下関連筋の評価を行うためには、「誰が操作しても」安定して評価できる必要があります。

そのため、私はエコーを用いた嚥下関連筋の量と質の評価の信頼性を確認し、検査経験の少ない検査者でも信頼性が高く安定して評価できる方法を検討しています。

活躍する先輩たちのリアルな声が聞ける！

KHSU
OB

就職活動ルポ



2021年3月卒業（医学検査学科）

抜迫 雄大さん

臨床検査技師
鹿児島県立大島病院

「思うこと、感じること」が大事

就職活動中は、日頃、自分自身がどうしてその就職先に就きたいのか、その就職先で何をしたいのか考えることによって、面接で迷うことなく言葉にできるよう意識していました。面接のために多くの質問に対して文章を作成することも大事ですが、「思うこと、感じること」が大事だと思います。就職活動では、なかなか一人では決断できなかつたり、就職活動、国家試験勉強の両立は大変だと思いますが、就職・実習支援課や先生などサポートして下さる方がいらっしゃると思います。困った時は、相談して十分に悩んでください。悩んだ分だけ良い結果になると思います。応援しています。



2021年3月卒業（リハ学科生活機能療法学専攻）

森 仁美さん

作業療法士
くまもと県北病院

どんなOTになりたいか明確に

まずは自分のことを理解することが大切だと思います。自分のことを就職先にアピールするにはどんなOTになりたいのか何を頑張ってきたのかを明確にして、自分のことを文字にできるように頑張りました。また、病院の情報収集もたくさんしました。得た情報は面接でも役に立ちました。就職活動中はどうな行動言動も見られると思って行動していました。特に挨拶と笑顔は印象を与えるので気をつけていました。就職活動と国家試験勉強で大変な時期だと思いますが、頑張ってください！臨床現場で待っています！

2021年3月卒業（看護学科）

中村 亜実さん

看護師
済生会福岡総合病院

自分と向き合える時間を大切に

3年の夏から就職を意識し、病院説明会に参加して各病院の特徴や強みなどの情報収集や、自分の行いたい看護や興味のある診療科について考え始めました。就職活動が本格的に始まる時期にコロナが流行し例年通りにはいかないことに不安になることもありましたが、就職・実習支援課の方の手厚いサポートのおかげで自分が働きたい病院を選択し、自信を持って試験も受けることができました。就職先を選ぶことは大変だと思いますが、自分と向き合える時間を大切にして、みなさんが希望する病院で働くことができるのを応援しています！



2021年3月卒業（リハ学科言語聴覚学専攻）

小山 いつきさん

言語聴覚士
高知大学医学部附属病院

広い視野を持つ大切さを学ぶ

私は在学中に興味のある資格を取得したり、小児から成人までを対象にした幅広いボランティアなどに参加したりしました。その理由として、言語聴覚士としての役割を学びたいと考えたからです。大学で知識として言語聴覚士という仕事を学び、さらに実際に自身の目で見て経験することが自身の言語聴覚士像を考える良い機会だったと思います。私が就職活動で最初に取った行動は、様々な人から情報を得ることでした。先輩や先生方のアドバイスは、自身を見つめ直すいい機会となりました。特に、希望していた病院の募集が出ずに焦っていた時、広い視野を持つ大切さを学びました。様々な就職先を見学できるのは、就活生の特権です。ぜひ就職活動で得た経験から自分の将来を考えてみてください。



2021年3月卒業（リハ学科理学療法学専攻）

吉川 太一さん

理学療法士
熊本赤十字病院

自分と向き合って、最後まで諦めずに

3年生の頃から、企業研究に着手しました。コロナ禍であり実習も満足に行く事が出来ず大変不安でしたが、インターネットを利用して様々な分野の病院を調べました。早め早めに調べていたからこそ、自分の本当にやりたいことを見つめなおす機会となりました。

就職活動は自分の人生を左右する大きなイベントです。しっかりと自分と向き合って、活動をしていってください。就職活動がうまく行かず落ち込むこともありますが、最後まで諦めずに活動を続けてください。



2021年3月卒業（助産別科）

藤井 里紗さん

助産師
産業医科大学病院

胸を張って伝えることを準備

私は助産師としてこれから長く働いていく中で、自分が今後どんな力を身につけて職場に貢献できるか考えて就職先を探しました。そして現在、総合周産期母子医療センターのなかにあるMFICUで働いています。就職試験では、自分の意見をしっかり持ち、大学生活でこれは頑張ったと胸を張って伝えられることを準備されると良いと思います。コロナ禍の就活で大変でしたが、就職・実習支援課や担当の先生方に何度も相談に乗って頂き、素敵な職場に就職することができました。皆さんも良き社会人ライフを送れるよう応援しています！

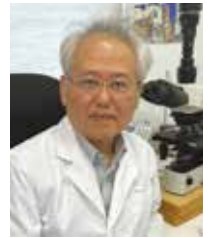
研究室紹介

形を科学する

医学検査学科長・教授 南部 雅美

私の研究テーマは複雑系の形態解析です。私が長年従事してきた細胞検査とは形態学的検査であり、診断の精度は検査士の経験に依存しています。そこで経験の補填を目的に、人工知能(AI)の元となる論理であるファジー理論を用いて、悪性リンパ腫の診断支援システムの構築を試みました。25年ほど前でしたので、当時普及していたNEC PC-9800にてファジーエキスパートシステム【創玄】を用いて構築しました。本システムを構築して実感したことは、人間の視覚的情報処理能の巧妙さと形の複雑性の評価の困難さでした。そこでフラクタル解析に出会いました。フラクタルは、フランスの数学者ブノワ・マンデルブロが導入した幾何学の概念であり、図形や現象の複雑さを客観的にフラクタル次元として数値化することが可能です。

まず手始めに子宮内膜細胞集塊の形状の複雑性の客観的評価法として応用してみました。その結果、腫瘍細胞の集塊は、明らかに正常細胞よりも高いフラクタル次元を呈しており、腫瘍細胞集塊と正常細胞の集塊の鑑別に有用である可能性を確認できました。次に、胃のNBI内視鏡イメージにより、血管の走行の複雑性のフラクタル解析を試み、悪性腫瘍の新生血管は良性腫瘍の血管より高いフラクタル次元を呈することを確認しました。現在行っている研究は、複雑系への更なる挑戦として、遺伝子発現制御と深く係わる核クロマチン構造のフラクタル解析を行っています。



Column コラム

田園地帯をウォーキング



学部長・教授 渡辺 雄一

朝天気の良いれば大学まで歩いて来ている。一駅前の崇城大学前付近から大学まで、時間にして45分から50分程度、歩数にして5,000歩強である。人に話すと感じられるが、慣れるとどうってことはない。むしろ今は楽しみとなっている。

コースはいつも決まっている。川べりを歩き、川面のキラキラした光の反射や魚を狙ってじっとたたずむサギを見ながら歩く。写真が趣味なので、良い被写体を探すのも楽しみだ。毎日光の具合が異なるし、季節によって風景の様相も変わるので、同じ道を通っていても飽きることがない。コースの真ん中の15分くらいだけは国道31号線わきを歩くが、考え事をしているとあっという間である。最後は西里の田園地帯を歩いて大学正門に着く。田園風景を眺め、体だけでなく精神もリフレッシュされて仕事を始められる。

問題は熊本の気候である。ちょうどよい時期が限られている。夏に朝から24度以上あるときは歩いているうちに汗だくになるので無理である。冬は、寒すぎてだめである。それでも日中10度くらいまで上がれば、昼休みの1時間を使ってキャンパス付近のサイクリングロードを歩いている。

これから1年で最も寒い時期にかかり、どうやってウォーキングを続けられるか悩んでいる。昨年までは、地元の阿蘇市に温泉プールがあったので週末は妻と二人で水中ウォーキングをしていた。しかしこの施設が閉鎖となってしまった。さてどうしたものか。



Library

図書館ホームページ <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library.html>

〇コロナ禍での利用状況

感染予防対策として、閲覧席は席の間隔を空け、貸出方式としていましたが、10月末から席の間隔は空けたまま、自由利用としました。また、土曜開館も12月から再開しました。ラーニングコモンズ・キャンパステラスも自由利用を再開し、館内は以前のような活気が徐々に出てきています。利用者数も一昨年度同様に11月の入館者5,500人と増加していました。

〇選書ツアー再開!

11月27日(土)第10回選書ツアー開催しました。約1年半ぶりです。学生さんと教職員がともに書店にて約250冊の本を選びました。学生さんは、「読みたい本が沢山選べて良かった。」「自由に選ぶことが

でき、夢のような時間を過ごせました。」と喜んでいました。選んだ本は、コメントを付け展示します。どうぞご利用ください。

〇『私の部屋でランチを』『サイエンスカフェ』開催!

6月から8回開催しました。演者は、木下理事長(3回)、助産別科学生さん、認定看護課程教員の杉本先生、共通教育センターの伊吹先生、リハビリテーション学科の松尾先生、医学検査学科の志多田先生です。会場では、参加者の人数制限とZoom生配信のハイブリット開催としました。

詳細は、図書館ホームページ (<http://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/>) をご覧ください。

図書館蔵書の中から 図書のご紹介(本学教員著書)



『熊本の橋紀行』

崎元達郎、福島通安著
2021熊本日日新聞社
配架場所：展示コーナー
熊本の橋134橋を地域や流域で分類。規模や形式、完成年、橋の歴史等紹介。アクセス地図や橋の豆知識もあり。

基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

—— 将来ビジョン ——

保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる

Vision 1
社会の変化に対応し、
リーダーシップを発揮できる
医療技術者の養成

ビジョン 1-1

教育改革の推進と
学生ファーストの
修学支援

ビジョン 1-2

独創的な
研究の推進と
大学院の充実

Vision 2
地域に根ざし、
地域と共に歩み、
社会の幸福実現に貢献

ビジョン 2-1

教育・研究
組織の充実

ビジョン 2-2

魅力的な教育・
研究環境の充実

Vision 3
10年後も20年後も
選ばれ続けるための
ブランド力の強化

ビジョン 3-1

学生・教職員の
国際力の向上と
海外の大学等との
連携強化

ビジョン 3-2

教員と職員が
協働する
効率的・合理的な
職場環境の構築

「熊保大夢基金」お礼とお願い

本学園では、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実を目的として、「学校法人銀杏学園 熊保大夢基金」への寄付をお願いしております。

令和2年度におきましては132件4600万円を超える御寄付を頂き、この場を借りて心から御礼申し上げます。頂いた御寄付は「新レストラン」「新キャンパステラス」などの整備費用の一部として活用させて頂きました。令和3年度も学内実習設備の拡充や、「クラウド型教育支援サービスmanaba（マナバ）」の本格正式導入等へ大切に活用させて頂いております。是非、基金の趣旨に御賛同いただき、ご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

詳細につきましては同封の「寄付金 募集要項」または公式WEBサイト(URL) <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp> を御覧頂くか、本学経理課までお問い合わせ下さい。

また、寄付申込書等で御許可を頂いた方々のご芳名を「ぎんきよう」紙面に掲載することも計画しております。既に御寄付頂いた件に関して追って掲載御許可を頂ける方がおられましたら、御一報頂ければ幸いです。

「熊保大夢基金」税制優遇の拡大

多くの皆様方から過去5年間に頂いた御寄付の実績が評価され、銀杏学園は8月に「税額控除法人」へ昇格しました。これにより、所得税の税額控除が選択可能となり、御寄付を頂く個人様方にとって税制優遇が一層拡大しました。

詳細につきましては、パンフレット「熊保大夢基金のご案内」の最終面冒頭を御覧頂くか、本学経理課までお問い合わせ下さい。

COVID-19の猛威に負けず、2021年の東京オリンピックでは、アスリート・パラアスリートの皆さんの活躍が感動を呼びました。本学では2022年度に理学療法士養成専攻が定員増となり、スポーツに関連したコースが設置されます。スポーツを通じて多くの方へ健康という感動を届けることができたらと考えています。



熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において令和2年度大学機関別認証評価を受審し、令和3年3月16日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。

本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。